(十五日夕刊)

磐城新聞

休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人 遊沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所 磐城新聞社 電話五六四番

清き一票の行り所（一）

平町 JK生投

縣會議員改選の期日も愈コ、旬日の間に迫つて來た候補者及候補者を廻る運動員諸氏 運動は言論に文章に宣傳に益々激烈さを加えて來た、有權者各位は覺悟の勝を固くして清き一票を行使せなければならぬ、殊に當選第一回のスタートを切る時に當り若しその選擧權の行使を誤る樣な事があつたらそれこそ大變である

從來の選擧の跡を見るさ有權者の一部には選擧を金儲けの仕事の如く心得金錢や物件或は利權の樣なものを引換へに投票をする樣な極めて惡い習慣があつた、ソコで新選擧法が生れて來たのであるがその條文には又國民を侮辱する程窮屈過ぎる條項も見える、斯樣な細かしい八釜しい取締を受けねば選擧權の行使が出來ぬ樣では果して選良その人を得らるゝであろうか、誠に心もとない感じがする。

新選擧法を改正するに當つて特に意外注かれたのはその取締の嚴重な事であるか被選擧人選擧人共に年齡或は居住年數等に僅かの制限を附したのみで毫も資格を要せざる事となり一二の財產のない者にも隨意に選擧場裡に立つ事が出來る樣になつた爲即選擧權の擴張された事が其の取締も倂せて嚴にせねばならなくなつた事であろうと思ふ

ソコで候補者として選擧場裡に立つ人は品性、德操材能、識見、辯舌等さへ滿足であれば宜しい、財產の力なさは餘り必要なく又金錢財貨の力を以て投票を買ふなどと云ふ餘裕は毫もなくて差支ない譯ら選擧法の精神既に茲にある以上は選擧人たるもの能く其の意を體し候補者より金錢財賄を求めて投票する樣な事あつてはならぬ、唯の一票と雖も誠に貴ふべきものであると云ふ事を自覺し一に人物の良否を見其の人の品性德操、材能識見、辯舌等が果して一地方一縣の代表者として恥つることなきやを檢し而して其の一票を其の人に投して之を選出せねばならぬ、之に反し其の人の財力如何を見金錢財賄を貪りて其の投票を賣る樣な事があつたとすればそれこそ與へたる清き一票の行使を誤るのみならず新選擧法の精神を沒却し其の上法の制裁の下に恥しい浮目を見ねばならぬのである、夫では決して立憲治下の國民と云ふ事は出來まい。

馬鹿氣た樣な話であるが昔英國の文豪カーライル氏は英國選擧界の腐敗墮落を痛嘆し厄介千萬な選擧法などをやめていつその事街道の二階から密柑の皮を往來の人に投げ付け中つた者を當選者にするが宜しいと激語したそうであるが無心の密柑の皮は時に正しい眞面目な手腕あり力倆ある人にも中るかも知れない有心有備の人が却て私に徇し利に趨りて其の選ぶ處を誤るよりも或は好結果を得るかも知れぬ、吾が政界とても今迄の如く腐敗墮落を重ね選擧場裡の風氣更に改まる處なきに於ては地下のカーライル氏も亦嘆喘笑を禁じ得ぬかも知れぬ、有權者各位は共に戒めようではないか

磐新顧問

（照合を歡迎す）

（問）妾は三年前、ある家に嫁ぎましたが、初めのうちは可成夫も愛してくれましたが、妾に子供が出來ないので段々冷淡になり、昨年末に夫は夫の母親と一緒に妾に向ひ、お前は身體に異狀があつて子供を生むことが出來ないのだからしばらく溫泉に行つて子供の出來るよう工夫して歸れと申しますから、妾も保養にもう身體も大丈夫だと自信たつぷりで歸りましたが、夫がもう二ケ月といひ又溫泉にやられ、本年四月に歸ると里方へ荷物が全部送りとどけられた、との通知が里からありましたから驚いて話ますと、子供を生めなくては妻に出來ぬ、もう離婚の手續きもすんだと申ますので人に賴み調べさせますとわたしの知らない妾の署名が捺印してあり協議上の離婚とどけが立派にすんでゐますからわたしの承知しない離婚ですから取消されますか（ふさ子）

（答）實に亂暴極まる話ですが、承知もせぬ離婚屆がしてゐるのは現行の法規か不備なためで仕方がありませんが、あなたがその離婚を無效とするにはあなたから裁判所へ離婚無效の訴へを提起し、その勝利の判決により戶籍を訂正する事を請求なさい。

明日の吉凶

新暦九月十六日 舊暦八月廿一日

▲一白 人の口舌が我身に振りかゝり來る日注意▲二黑 家內に風波なければ事業は自から進むべし▲三碧 喜びも喜びに終らず滿する時は過失を生ず▲四綠 褌を締め直して掛れば難みも解け去るべし▲五黃 寸陰を惜んで勵むときは空より移るべし▲六白 進むに秩序あれば任は重くも果す事を得▲七赤 近き所より遠きに及ぼすべき事を忘るな▲八白 人を容るゝの量なれば邪魔の入り來る日▲九紫 守勢より一歩を攻勢に轉じ來る好機たり

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

講談 (140)

高橋掬太郎創作
布施中八郎揮毫

怪人驚く

怪人は元より一刀の下に淸左エ門を斬つて捨てる氣である、殺氣に燃え立つ銳い眼光は天狗の假面をとほして射るやうであつた。

怪人は上段に構へたヂリ〳〵ツーと双方から進んだ各々六尺に近い身体が白刄の蔭に隱れて髮の毛一本のくづれも見ゑなかつた

怪人は例の如く何程の事があらうと高をくゝり、拔討に斬つて捨てやうと考へてゐたのであつたが神部淸左エ門は本間家隨一の劍道の達人であつた。死んだ石出忠兵エと共に並び稱せられた腕前の淸左エ門だけにさう易々と討たれる筈がなかつた。互に息が詰るほど氣を呑んで虛を狙つて[illegible]

淸左エ門は驚きしにまさる怪人の腕前に內心驚いた（これ程腕前のものは本間家にない筈はて何者であらう）と淸左エ門は油斷なく怪人の樣子を見つめた。

怪人も思ひがけない淸左エ門の腕前に驚いたやうであつたが何んと思つたが一足とびさがつて聲をかけた

「あいや暫く待たれよ」

怪人の聲は幾分丁寧であつた。

淸左エ門はこの聲を聞いて對手が未だ年若い者にちがひないと察した

「何んでござる」

と淸左エ門は怪人の聲に應じて白刄を引いた。

そして尊敬をこめた言葉で怪人の意を問ふた

「待てと申したは餘の儀てないが餘りと云へば立派なお腕前感心仕つたがお身は本間家の人でござるか」

「いかにも」

「うむ本間家にもお身のやうなお腕前の人がござるかな。して御姓名は？」

「拙者は家老神部淸左エ門であるがしてお身は？」

「ナニ神部淸左エ門殿！」

怪人は激しく驚いたやうに叫んで思はず前へ一足進み出た。

淸左エ門は怪人の驚いた樣子を見ていよ〳〵我が味方のものに相違がないと思つた。しかし何人であるか心當りはなかつた

「拙者は神部淸左エ門であるが御身は何者である、夜毎に現れて往來の武士を斬つて捨てるのは何か本間家に對して怨みを抱く者か？」淸左エ門は問ふた

「如何にも拙者は本間昌康と其の一味の惡人輩に怨みを抱く者でござる、しかし御貴殿の如き誠忠の士に向ける刄は持ち申さぬ」

怪人は親しみのあるやうな聲で云つた。

「成程してお身の姓名は何んと仰せられる」

互に白刄をおろして向き合つた。

「いや姓名の儀は暫くお問ひ下さるな、何れお目にかゝる時節もござらう」

と怪人は名を秘した

「左樣でござるか、然らば强いてお問ひ申さぬが當主昌康公と其の一味を怨むと仰せられるのは如何なる次第でござるか？」

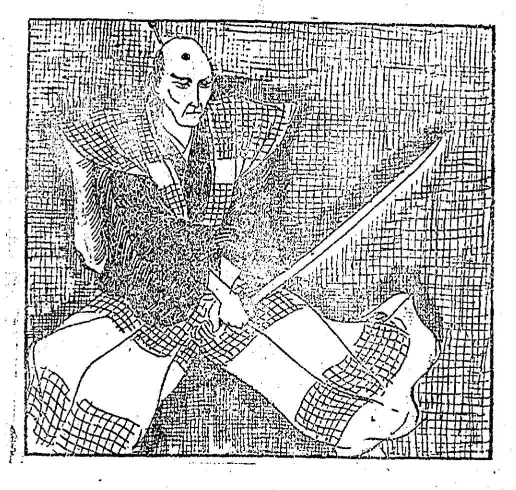
淸左エ門はどうにかして其の正体を知りたいと思ふのであつた。

「それは先君成昌公の怨みを晴さうとするのでござる從つて成昌公に忠義の人々には刄は向けぬのでござる御貴殿の事もよく存じてをるのでござるが暗中とてお顔が分らずお聲をよく聞き覺ゑてをらぬので失禮仕つた。何れそのうちにお目にかゝることに致さう御免あれ」

と云ふより早く怪人はパツと身をひるがへして闇中に馳け出した

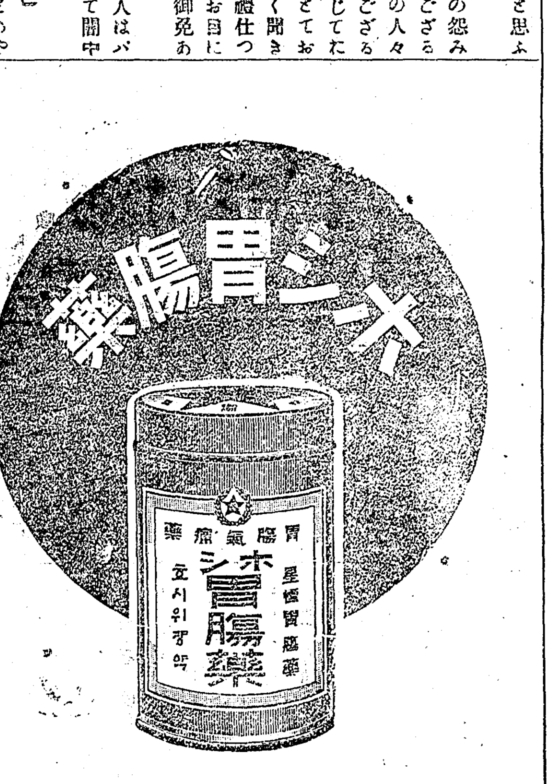
「あいや、暫く〳〵」

と淸左エ門は呼びとめやうとしたがその姿は遂に闇に消ゑてしまつた。



九月十五日ヨリ日活松竹時代劇映畫
番外提供松竹獨特映畫 新井淳、飯田蝶子
大喜劇 大ベラ棒物語り 全一卷
大阪每日新聞連載小說 各社競映ヨ日活映畫
長篇劍史 鳴門秘帖 第三第四第五 十九卷 全部上映
谷崎十郎、尾上多見太郎、酒井米子…主演
松竹劍部の大革新林長二郎第一回作品
岡島艶子、相馬一平、關操…助演
劍史 稚兒の劍法 全七卷
美劍士…思はづアッと叫ぶ一刄一閃傳ふべきに業平朝臣もかくあらん……我等のスター長二郎の爲めファン諸兄姉御指導御聲援を乞ふ……
（部明說）石井 小林 南谷 孝 完 天洋 桃華
土曜日 學生デー
日活松竹 平館

平町紺屋町
吉田眼科醫院



片濱自動車運轉
平、高久、豐間、江名
停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋
電話…二一七番
電話…一四二番
（御三人以上はお迎ひに參上致します）
平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木 片濱自動車商會

外科
外科、耳鼻咽喉科
內科、泌尿器科
X光線科
赤心堂病院
平町字田町
電話四七五

ハチブドー酒
團欒への一杯！
賓客への一杯！
健康への一杯！
品質本位
美味＝最も芳醇にして萬人の嗜好に適し
滋養＝最も豐富にして氣力と体力を增す

發賣 近藤利兵衛商店 發賣

懇切迅速勉强は
弊店のモットーであります
磐城銀行御指定
ケーテー洋服店
平町材木町
高野幸一

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負 其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

商標登錄
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番 釀造工場二七番）
振替東京一九七五五番
上野車坂町四三
東京支店
電話下谷五七二二番
振替東京六八三三番

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
內科、小兒科、
外科、花柳病科、
耳鼻咽喉科、
レントゲン科

舊菊園を風靡して 古川候補優勢
安島、金成兩氏先陣に 萬全を期して奮闘

石城の縣議戰は日時切迫と共に益々競爭の眞摯味を加へ文書戰に言論戰に各候補者とも死力を盡してゐるが本郡南方部を根據に起つた政友派公認古川傳一氏は既に現期四ヶ年の經歷に照らし郡民を代表して縣政に送る充分の

手腕力量 を今や郡民より認められ殊に安島重三郎、金成通氏其他有力なる背景を擔ひ當初より最高點を豫想される優勢な地位にあるが素より選擧は水ものにして絶對に油斷を容さざるものあり各所に論陣を張り古川候補一流の牽引きなき政治的卓見に聽衆をどう醉せしめてゐるが安島、金成の兩氏が古川候補の爲め發した推薦狀は左の如きものである

拜啓秋漸く酣ならんとするの時益御清康欣賀此事に候、政治は實際にして力なりまた勢ひなり而して吾人の生活に産業の開發に國力伸展民福の增進に直接關係を有するものなることは今更ごゝを要せざる處と確信致し候即ち政戰に處し毎に候補者の選擇に就て苦心する所以にして今回の縣會議員選擧に當りてもその志を同じうする多衆各位と共に深く此處に留意し幸ひに學殖あり識見あり人格崇高にして過去四ヶ年の間寢食を忘れて縣治のため奔走し縣會議場常に侃々諤々教育に交通に治水に產業に其のうん蓄を傾け悉くして縱橫無盡の經綸をのべ新人としての擧高き古川傳一君を候補者に推薦致したる次第に之有候、幸ひにして御同情により同君をして再び縣會議場の人たらしむる事を得ば過去四ヶ年の体驗を意義あらしむるのみならずまた以て縣治の刷新と地方福利の增進に及ぼす影響甚大なるものありと被信候希くば光輝ある貴下の一票を力ある新人古川傳一君に御投票賜り度希上候茲に推薦の御挨拶申述べ度此如御座候 敬具

安島重三郎
金成通

有權者を集め 選擧心得注意
明後藤田校で

縣議選擧も目前に迫り各候補は必死の猛闘を續けてゐるが直接取締警戒の任に當る平署當局では光輝ある普選實施第一回の地方選擧として萬遺憾なきを期するため管內各町村全部に亘り普選法の疑義有權者の心得等に關して解釋說明をする所あつたが競爭最も激烈を極める平町に於いては來る十七日午後一時から私立藤田女學校講室に於いて猪狩署長自ら有權者心得に關する講演ある筈で町當局では各區長を通し區內有權者全部に出席勸誘方を通達した

井上氏の勢力加はり 野崎氏甚だ危險
若松、鷲氏も挽回して 民政黨足並亂る

石城民政黨公認三候補は北部若松美三、中部野崎滿藏、南部鷲淸昇の諸氏夫れ〳〵大体の地盤割を定めたが右の區域分割について或る一派の橫暴から內訌を生じ幹部長萩原義雄氏を初め有力幹部間に面白からぬ溝渠を生じ兎角足並が亂れ勝ちの模樣あるが一時

狀勢不利 に陷つた若松美三氏は其の後緊張せる選擧事務從事員と郡下同志の糾合するありて二三日來勢力頓に加はり既に確實なる得票三千七八百を豫想され郡南の鷲淸昇氏また意外の勢力を得全然豫想外にある豐間、江名、小名濱、玉川泉等の民政黨より少なからぬ實收穫を見るものの如く形勢全く一變したので曩きに優勢を傳へられた野崎滿藏氏は俄然危機に瀕するの立場に陷つたものの樣である、即ち野崎氏が地盤とする平町は

井上茂作 氏の爲めに 消防組並に大瀧發電所設置反對同盟會が猛然と蹶起し町民の判斷と同情に愬ふる外井上氏の淸貧が證明する淸廉な人格に惚れ込み同氏への同情市井の隅々まで擧り一方青沼銖太郎氏の堅實な運動により野崎氏の得票は漸次蠶食され前途甚だ悲觀すべき狀態に陷つたので野崎候補の參謀猪狩千勝、金子政通氏等は勢力の挽回策に努力してゐる

政友の候補者なら 何人へでも自由
區域割り等はない 迷はずに投票を

石城政友派では井上、鈴木、山崎、古川の四氏を公認し飽くまで全勝を期し部會長安島重三郎氏外最高幹部の發する法略に基き一糸亂れぬ步調を整ね正々堂々の步武を進めてゐる、即ち今回の選擧は普選最初の選擧であるが故に終始一貫して飽くまで普選の精神に基き有權者並に候補者の自由意志を尊重する爲め從來選擧毎に慣行して來た候補者の區域割り等を絶對に廢し右四名の候補者が何れの町村に斬り込むとも自由である可きを申合せたので之れは一般有權者より非常に歡迎されてゐるが一部間には從來の如く候補者の關係に基き區域等がある樣に考へ復たま〳〵之れを言外する運動員等も見え各候補者とも相互に迷惑をしてゐるが斯くの如き事は絶對にないので有權者は右四氏のうちならば何人にでも構はず自由に投票せられたいとの事である

平町の手で 火葬場町營
組織變更協議

平町の火葬場經營は從來會社組織として民間で之れを經營して來たものであつたが取扱上各種の關係から町營に組織を變更すべく十四日午前十時から役場に協議會を開いた

生活百態 (三)
心に一分の隙もなく 氣苦勞の踏切番
好きや道樂では出來ぬ 間違へば口が乾上る

踏切番も職業の一つ、職業としては一番責任が重い子供が旗を振るのと違つて旗の振り加減一つで巨岩も碎くといふ列車を一たまりもなくすつてんころりん飴のやうにグニャ〳〵にしてしませう

×

殊に平町大工町、城山上り口、搔槌小路等の踏切りはけふこの頃のやうに往來の人通りや車馬の往還が繁くなると踏切番の責任が益重荷を加へてくる、油斷も隙もない、一方にたいて列車の安全を圖り、一方において通行者の危險を防止する、休める暇がちつともないといつていゝ、本當に安心して休めることの出來るのは夜中終列車が通過した後位なものである

×

時々踏切美談なんかといふものが出來て人の淚を絞らせるが、踏切番にとつては人を助けるのも生活の糧を失ふのが辛いからだといふだらう、鐵道にしてみたところで伊達や醉狂で踏切番を備つてゐるのではない、罷り間違つて過失でもしでかしたら情容赦なく首を切つてしまう

×

人の危險を知つて我身を顧みるの餘裕もないといふ美しい心もあるには違ひないが、本當のことを言へば自分の身が可愛さに突嗟の場合我を忘れて人を助けると言つたやうなものです、と或る踏切番が眞實の告白に及んだものである

×

收入と言つては甚だ僅少なものでたゞ住宅を與へられるといふ特典があるだけだがその住宅も安らかなねぐらではなく年から年中轟氣味惡い列車の響きがつきもの、職業なればこそ四六時中同じ仕事を繰返して倦むところを知らないが、道樂や面白半分ではたゞの半日も勤まらないといふ

小名と豐間に 自動車運轉
交通益々便利

石城郡小名濱町小野晋氏に小名濱と常磐線泉驛間に乘合自動車を運轉してゐるが更に小名濱より江名町を經て豐間村八幡町まで片道二里七町間に一日往復六回の乘合自動車營業を出願して三日から許可されたので近く營業を開始するかくて平町から豐間、小名濱地方の交通は益々便利になる譯である

山崎吉平氏 論陣を張る
內郷と草野に

政友會公認山崎吉平氏の政見發表演說會は十五日午後二時より內郷村小學校、午後六時より湯本町三函座、十六日午後二時草野村公會堂、午後六時同村大平駒吉方に於て行ふ筈で後援辯士として新田目善次郎、大峰庫草野七五三之助、川崎文治酒井喜代正、直木桓の諸氏熱辯を揮ふ筈

酒醬油品評
平管內の出品

仙臺稅務監督局管內の酒醬油品評會は來る十一月一日から十二日までの間仙臺市に於いて開催されるが平稅務所管下からは約六、七十點の出品ある筈で尙十七、十八日の兩日福島市に開催される本縣主催の酒醬油品評會には百餘點の出品を見る筈である

平驛の貨物動態は 二倍半の激增
濟界も漸次好轉して 貨車の增加手配

平驛の貨物動態は夏秋蠶の出廻最盛期も過ぎて昨今漸次閑散期に入りつつあるか同驛去月中の貨物動態は發送、到着、中繼共に此處二三ヶ年間全く見られなかつた程の大激增を示した即ち今前年同期の取扱と比較すれば

△發送本材前年の一〇七噸に比し二五二噸、木炭二四噸に比し七五噸、野菜一四噸に比し七一噸、石油二〇噸に比し一一五噸、鹽四五噸に比し六〇噸、煉瓦一六五噸に比し二〇五三噸

總計昨年同期の二千百八十二噸に比し今年五千六百九十三噸と言ふ約二倍半以上の大激增で次に到着に於いても同樣昨年の一萬二千四百二十八噸に比し一萬四千三百三十二噸で約二千噸の激增を見たが其の內譯は石炭八九四九噸砂利一一九九噸本材七〇七噸等が重なるもので景氣

不景氣の バロメータとも觀るべき酒やビールでさへ昨年同期の百噸に對し今年は百二十二噸と激增し漸次好轉しつゝある事を裏書きしてゐる尙平驛貨物取扱所では石炭、木炭等の需要期にも近くなるので今月下旬頃からは例年の樣に貨車の動きが激しくなるものと觀測して貨車の手配に着手した

北國の旅から
札幌にて 默鐘

今日は細い雨が降つてゐる、雨を衝いて市內見學宿から借りた蛇ノ目傘が風にしたたかぶちのめされて道廳前でうろ〳〵した、札幌の路面は整然としてゐる、都市美に至つては東京の比ではない、一寸京都へきた氣分がする、文化の程度は內地より進んでゐるやうな氣がする

百萬圓寄附問題は 正式調印終る
淺野氏この諒解が成り 商港問題順調に

小名濱港改築費として淺野總一郎氏から寄付する百萬圓の契約書は最後の調印をするために去る十二日上京した

縣土木課 の船尾主任技師は淺野氏側でまた〳〵改築工事を昭和三年度から向ふ六ヶ年繼續事業として昭和八年度に落成するとある縣の契約條項に對し萬一向から事情で六ヶ年間に出來ない場合寄附金をとられるのではこまるといひ出したので字句の訂正について電報で縣と打合中であつたが十四日縣から萬難を排して

六ケ年間 に落成せしむる旨を打電しさしも面倒を極めた百萬圓寄附問題も十四日完全に締結を見た

城山に鼠賊
平署刑事活動

平町城山方面に數日來胡鼠泥が盛んに出沒し着物を始め米、味噌、野菜、飲食物等の被害續出するので平署では昨日から森、二瓶の兩刑事が犯人の逮捕に努めてゐるが或は乞食なその仕術ではないかとも觀られてゐる

梅の湯落成
大きく奇麗に

平町田町梅の湯は豫て改築工事中であつたが愈々工事が立派に落成し本日盛大な改築披露をしたが從來の浴場を更らに一廻大きく入口其の他目も眩むやうな壯麗さで田町通の一美觀を添えてゐる

少閑を得た 四倉繭市場
買馴六圓位

石城販賣利用組合四倉繭市場に於ける昨十四の取引は雨天に祟られて賣方少く僅に百貫內外の取引あつたが相場は最高六圓四十錢から最低五圓止りで買馴六圓十錢である

案外輕く濟んだ 郡下豪雨の被害
農作物にも少ない 平署の調査發表

石城郡地方に於ける昨十四日の大豪雨は小名濱測候所の觀測に反し午前二時頃から小止みとなり四時頃に至つて全く止むに至り幸に常地方一帶は大洪水の難を免れる事が出來たが浸水した家屋は平署の調査に依ると平町は流石に鐵北方部が最も多く北目町の約二十戶、梅ヶ町は全町、柳町約二十五戶、仲間町約五十戶、鷲匠町十戶等各れも屋內床下一尺位いから床上七八寸內外に及び其の他平窪村、鯨岡、好間村、川中子、同關の上方部にも可成の浸水を見たが各れも被害は極めて僅少で稻田、畑等の被害は目下郡農會で調查中であるが此れまた被害僅少の見込で唯た目下出盛期にあつた梨果が落された程度のものであるらしい

社告

記者 飯島尙寛

右本社記者として十五日より入社仕り候

磐城新聞社

縣下小學生の デツトボール
國民支局主催

國民新聞社平支局主催の縣下各小學校のデットボール競技大會は十八日午前七時から平第一小學校庭にて開催の筈であるが一切の事務取扱ひは同支局に於て行つてゐる

劇と映畫

平館……十五日寫眞全部替り松竹喜劇「大べら棒物語」長篇劍史「鳴門秘帖」松竹劍史「雅兒の劍法」その他名器のみを揃へて上映

時言

一時危險の狀態にあつた井上茂作氏の勢力とみに挽回し、當選稍々確實の域に入る、眞の値打ちを見込む處流石は平町民だ

□

惡黨は惡黨で押し通し投票は須らく金で買ふべしさ、メツキを金に見せようとするよりは其の方が正直で可愛氣がある

□

權にも八にも縣政に對する理解と智識と卓見があるものでない、候補者並の熱なぞを吹かすに買取專一主義を採れ

□

政友四候補漸次勢力を盛り返し今や全勝些さかも疑ひなし、たゞ怖る可きは敵の實彈あるのみ自重他戒を怠るな

平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

秋!
活躍のシーズン來る
勞働勤務に運動に
指示正確なる
時計を
TRADE MARK NIPPONOPHONE
蓄音器とレコードの
御用は……
定評ある當店へ
平町四丁目
會田時計店
電話三六三

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡(城山)
青沼醫院
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

秋冬帽子案內
子供帽子
鳥打帽子
中折帽子
御好品ヲ澤山取揃ヘマシタ。
海岸線平町四
ツルヤ商店
電一四〇

メンチカツ一品
金十五錢
出前も致します
カフヱータヒラ
平町一丁目(電話六二〇番)

拜啓荊妻ヨシ儀昨夕突然大負傷治療不相叶本日午前五時死亡致候葬送の儀は明後十六日午後二時出棺大舘大林寺に於て佛式相營み可申此段御通知申上候 敬具

昭和二年九月十四日

福島縣平町二丁目
永山小平